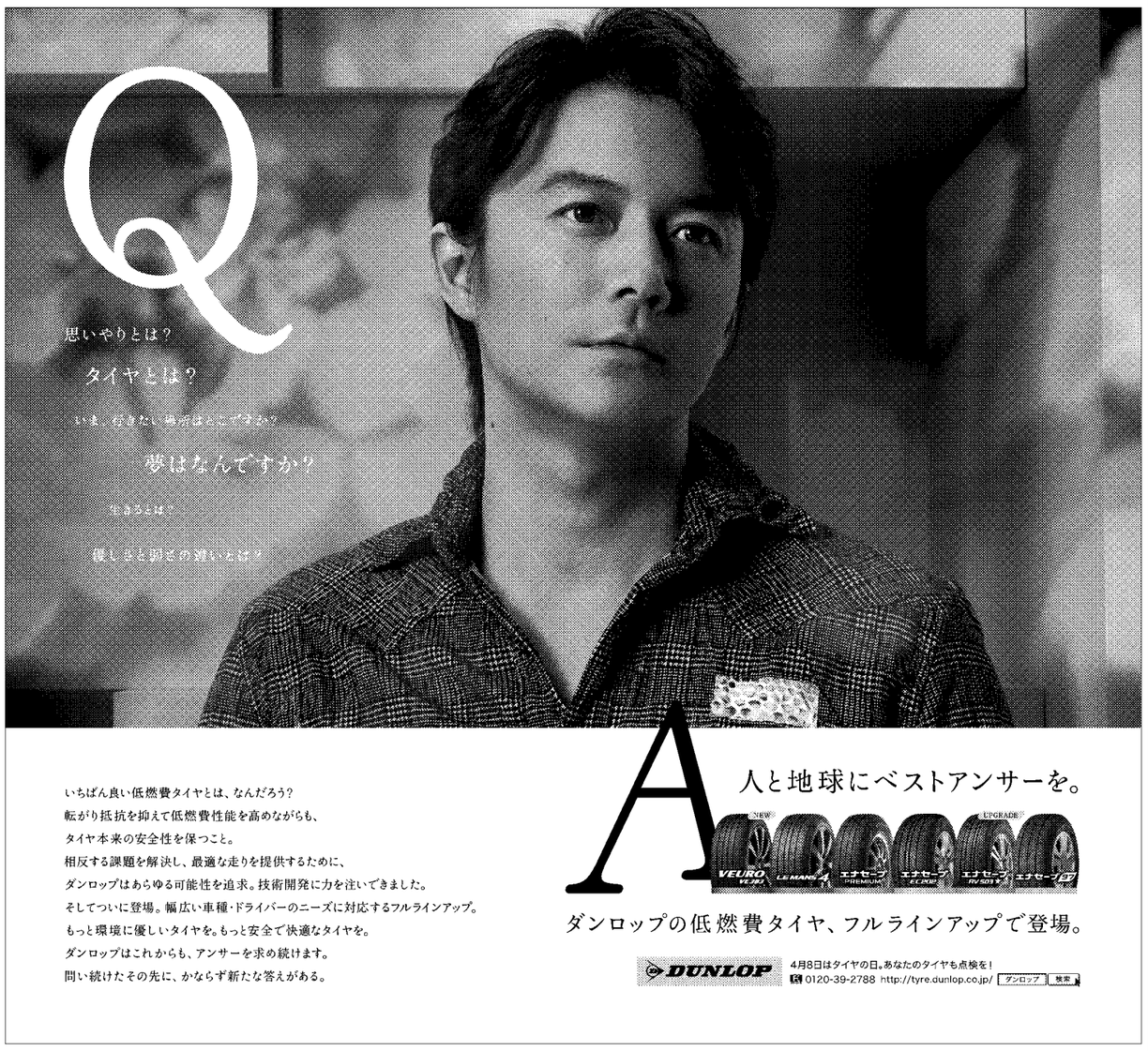
商品名	標準価格(税込)
ハイスパイマン　P1.4　本体	¥1,560（¥1,638）
ハイスパイマン　P1.4　替刃	¥810（¥851）



メッセージ

産業活性化に向けて

兵庫県知事　井戸 敏三 氏

第2次安倍晋三内閣の発足に伴い、経済界には明るいムードが漂いつつあるが、足元はまだ厳しい状況が続く。そうした中、兵庫県内では昨年、X線自由電子レーザー施設「SACLA」やスーパーコンピューター「京」の共用が始まるなど、産業活性化に向けた種まきが進んでいる。2013年、行政はどのように兵庫経済を応援して行くのか。井戸敏三兵庫県知事と矢田立郎神戸市長に、メッセージをもらった。

企業の海外展開支援

「総合窓口」で相談に対応

東日本大震災以降、順調に回復してきた本県経済は足踏み状態となっています。中国との経済交流や貿易収支の悪化などから先行きも懸念されています。それだけに、内外の変化に積極的に対応しながら、新たな活力を生み出していかなければなりません。

本県にはスーパーコンピューター「京」、「SACLA」、「SPring-8」などの最先端科学施設が立地しています。また、300以上の研究・教育機関や、神戸医療産業都市などの産業クラスターなども存在しています。

兵庫経済の持続的発展のためには、これらの資源を活用し、新産業・新技術を創出していくことが重要です。このため、県では「京」、SACLA、SPring-8などの相互利用による新素材・新薬の開発支援や、FOCUSスパコンなどの提供による企業の研究開発促進、高度な技術者の育成などに取り組んでいます。

アジア新興国などの成長エネルギーを取り込んでいくことも大切です。県では、県内企業の海外事業展開を支援するため、総合窓口となる「ひょうご海外ビジネスセンター」を設置し、アジア5カ国7カ所に置いているサポートデスクと連携を図りながら、ワンストップで相談に対応しています。また、昨年10月には、アジアとの経済連携の現地拠点として、「兵庫県香港経済交流事務所」を設置しました。県内中小企業の海外進出支援、本県への観光誘客の促進、農畜水産品の輸出拡大などに取り組んでいます。

最先端の科学施設、分厚い産業集積、進取の気性、多彩な人材。兵庫が培ってきた強みを存分に発揮しながら、新時代の経済社会づくりに果敢に挑んでいきます。

神戸市長　矢田 立郎 氏

アジア進出を後押し

市内製造業のニーズ汲み

昨年は、「新しい時代が神戸から始まる」、そんな気持ちにさせてくれる数々の出来事が起こった一年でした。神戸に縁（ゆかり）のある山中伸弥先生のノーベル賞受賞や市内でiPS細胞（万能細胞）実用化の研究が進んでいること、神戸出身のスポーツ選手が多数、国際舞台で大活躍したことも記憶に新しいところです。

特にわが国最大のバイオメディカルクラスターに成長した医療産業都市では、「神戸低侵襲がん医療センター」や小児がん患者と家族の滞在施設である「チャイルド・ケモ・ハウス」がまもなく完成するほか、兵庫県立こども病院の移転決定など医療関連施設集積が加速しているところです。

昨年9月、ポートアイランドでスーパーコンピューター「京」が共用を開始しました。「京」の周辺に大学、研究機関、企業などが集積しつつあり、人的資源の結集が進んでいます。

今後「京」の利活用による最先端の研究成果創出、企業の製造プロセス効率化・コストダウンなどが進むことにより、神戸のみならずわが国経済の活性化・国際競争力の強化に寄与すると期待しています。

また、市内中小製造業のアジアへのビジネス展開に対する関心が高まっています。そこで昨年7月に、進出検討段階から進出後まで支援を行う「神戸市アジア進出支援センター」を開設しました。今後、市内製造業がアジアで円滑に事業展開するのに伴い、アジアから神戸へ「モノ」「金」「情報」が還元され、市内経済がさらに活性化することが期待されます。

一方国内においては、東日本大震災の被災地復興が本格化しつつあります。神戸市では、東日本大震災発生直後からいち早く被災地に職員を派遣してきました。

道路、下水道、公共建築物の復旧やまちづくりなど、復興の段階に応じ、阪神・淡路大震災の経験を持つOBなどの人材の活用も含め、真摯（しんし）に支援していきたいと考えています。